

令和4年新年会：大使挨拶

2022年1月14日

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年12月に着任いたしました、駐ブラジル日本大使の林禎二です。今年はオンラインの方もいらっしゃいますが、新年会を催して、ブラジルの皆様、特に日系社会の皆様とともに、新しい年、2020年をお祝いできることを大変嬉しく思います。

改めて、少し自己紹介をさせていただくと、私はブラジルでの勤務は初めてですが、前職の外務省の中南米局長時代を含めて、仕事ではこれまで何度もブラジルを訪問し、友人も多くいます。今回こうして大使として、ブラジルで勤務できることを大変光栄に、そして嬉しく思っています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

日本とブラジルの間には、人の絆、経済、文化、これまでの協働から培われた信頼で結ばれた、強固な友好関係が存在しています。そうした両国の友好関係の重要な礎となってきたのが、ブラジルへの日本人移住者、そして日系人の皆様の存在です。この機会に、両国の友好の架け橋として、両国関係の強化に寄与されてきた日系社会の皆様にご敬意を表します。駐ブラジル大使として、ブラジルの日系社会の一層の発展のため、日系社会の各種活動に対して最大限の協力を行ってまいります。

また、人の絆、経済関係を支えていただいている在留邦人の皆様の安全・安心・健康の確保、日系企業のビジネス支援にも、今年は積極的に取り組んで参ります。私のモットーは「大使館の敷居をゼロにする」ことです。お役に立てること、ご相談等ありましたら、何なりと大使館にご連絡下さい。

昨年、一昨年は、コロナ禍によって、日本とブラジル関係においても、人的交流、経済関係、日系社会の活動などが、様々な影響を受けました。多くの交流や行事が中止になったり、ビジネス環境が厳しくなったりしたことが多かったと承知します。他方、そうした中でも、オンラインでの距離や時差を超えた交流や、デジタルを活用したビジネスの拡大など、希望をもたらしてくれる新しい動きも見られます。外交の世界でも、オンラインやハイブリッドの協議が増えました。

そうした中で迎えた2022年は、日本の干支でいうと、壬寅（みずのえとら）にあたります。壬寅（みずのえとら）とは、「厳しい時期を経て新しいものが生まれ、成長する」という意味があるそうです。

ブラジルでも、2022年は、独立200周年であり、また、大統領選挙も行われる、

重要な節目の年となります。デジタル分野では5Gの実用化もいよいよ始まります。こうした新しい機会や活動もとらえながら、日ブラジル関係の一層の強化に向けて、ブラジルの皆様との協力、交流を一層推進していきたいと思っていますので、本年もご支援のほど宜しくお願いいたします。

最後に、改めて、皆様にとって、本年が健康で実りの多い一年になりますよう、願っております。

ありがとうございました。

(了)